

HARVEST WEDDING

—秋咲く小路でウェディングを—

—市民ワークショップで公共空間の使い方を募集し、そのアイデアを社会実装することを目的とする。さらに中山間地域が問題を抱える中、公共空間の運営を通してまちづくりにどのように大学が貢献できるのかを研究、実践する—

■主な連携先・メンバー

養父市／大阪夕陽丘学園短期大学／株式会社CALARS／関西大学都市設計研究室／阪急コンストラクションマネジメント株式会社

■活動地域

兵庫県養父市

■活動資金

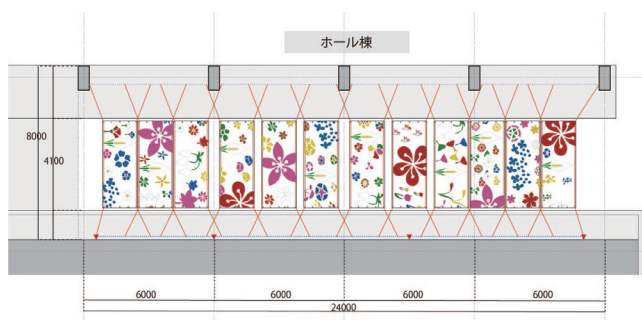
2021年度地域連携活動に対する補助事業

■活動期間

2017年度～継続中

連携にいたる経緯

2016年、本学と養父市の包括連携協定の一環で、都市設計研究室を主宰する木下光教授が、養父市文化会館等建設基本構想委員会委員としてやぶ市民交流広場-YBファブ-の事業に参画。以降、都市設計研究室は、市民ワークショップ「養父を奏でる365符のマーチ〜みんなでつくる365日の使いこなしカレンダー〜」(2018年)、壁画アートプロジェクト(2019年)などの活動を通して、産官学の連携の中で学として積極的に参加・協力することになった。



花天井デザイン



やぶ市民交流広場-YBファブ-



花天井制作風景



バルーンリリース(芝生広場)

#まちづくり #公共空間 #ウェディング

活動内容

ホール・図書館・公民館・公園機能を複合化したやぶ市民交流広場-YBファブ-が旧グンゼ工場跡地に建設され、オープニングイベントの一つとして2021年10月24日にHARVEST WEDDINGを実施した。養父市が主催で、挙式進行を大阪夕陽丘学園短期大学、その学生指導・プロデュースをCALARS(結婚式プロデュース会社)、空間設計を都市設計研究室、全体調整を阪急コンストラクションマネジメント株式会社が担う、産官学による共同事業である。挙式を図書館棟とホール棟間の小路で行い、芝生広場でバルーンリリース、まちかど広場で披露宴を行った。都市設計研究室は、小路に1mmメッシュ地の天井幕とそこから吊り下げる花で構成された花天井を制作した。天井幕は、-YBファブ-の工務用仮囲いとして活用した旧グンゼ工場ブロック塀に2019年、市民ワークショップで制作したアートプロジェクトの壁画を転写してデザインした。壁画は養父市・旧四町(八鹿・養父・関宮・大屋)の市花や町花と養父に咲く二十四節季の花が描かれている。実験を通して吊り下げ方法に工夫を凝らした花々が、バーজনロードに生まれ変わった小路を終日美しく彩った。通りがかる市民も老若男女問わず花に触れ、一緒に祝い、公共空間本来の力を風景化できた。



集合写真(花天井下)

連携先からのひとこと

事業当初から多岐にわたりご支援いただき大変感謝しています。高校生のアイデアを実現するというこの企画。実現過程で課題ごとに丁寧に事前検証していただいたおかげで、新郎新婦に素敵な結婚式をプレゼントすることができました。(養父市)

活動の成果

- ▶ 公共空間の活用事例と公共空間の社会的役割の提示
- ▶ 学生の実践的な学びの場の提供
- ▶ 養父市及びやぶ市民交流広場-YBファブ-の情報発信の促進

今後の課題・目標

- ▶ コロナ禍で中止となった収穫祭を実現し、次年度、収穫祭の中でのハーベストウェディングを実施する
- ▶ やぶ市民交流広場-YBファブ-の活動に継続的に企画参加し、公共空間の使いこなしを提案する
- ▶ 養父市と市民が協力して、やぶ市民交流広場-YBファブ-の企画運営を行っていく仕組みの構築

環境都市工学部 教授 木下 光 Kinoshita Hikaru



『モノ×ヒト=コト』、『デザインを発見する研究、研究が導くデザイン-Research as Design, Design through Research-』、『土木・ランドスケープ・都市計画・建築を統合し、政策を空間化・時間化する都市デザイン』をコンセプトとし「アジアの食と公共空間」、「アジアのクールルーフ〜素材からつくる住居」、「戦後日本の都市論」、「産業からみる都市・地域再生」の研究を行う。